

中国における自動車流通管理体制に関する調査研究

(報告書の概要)

中国の自動車産業は2007年に日本、米国に次ぐ世界第3位の生産規模にまで成長した。市場も同年に、既に日本を抜いて米国に続く世界第2位となり、10年には1,000~1,200万台市場にまで拡大するとみられている。

急成長を続ける中国において、政府は中長期的ビジョンとしての「自動車産業発展政策」をはじめ、産業基盤の強化と産業全体の健全な発展のための政策・法規を立案、公布している。しかし、それら政策は自動車メーカー（卸売会社）、販売店（国産・輸入車）、交易市场（新車・中古車）、ユーザー（法人・個人）等の間で、必ずしも一貫した体系的な誘導策を講じるまでには至っていない。

本調査研究では、中国において自動車の生産・販売（流通分野）を積極的に進めようとする日本企業にとっての市場参入の課題を政策的側面から明らかにすることにあるが、中国の政策は条例を含めて改訂が多いと指摘される。このため、日本企業が中国市場に参入する際に注意すべき政策動向を重点的にレビューし、現在策定中の関連政策の状況、最新動向及び今後の方向性を検討することで、参入課題に直接的に寄与するための調査研究を実施した。特に自動車の「流通」分野に着目するのは、10年までに自動車の設計から廃棄・リサイクルにまで係わる一貫した管理制度を整備する旨の方針が政府から示されているためである。今後も公布が予想される関連政策では、立案の背景やその概要を中国国家発展改革委員会、商務部等、現地の政策立案関係者や企業関係者にヒアリングを実施して、政策の方向性を検討した。これらを通じ、中国進出に伴う政策上の問題点を明確にし、経営戦略策定に資する研究を実施した。

(報告書の主要構成)

- 第1章 中国の自動車流通の変遷
- 第2章 中国の自動車流通政策の現状と見通し
- 第3章 中国の自動車登録・車検制度の現状と課題
- 第4章 中国の自動車流通関連税制の現状と課題
- 第5章 中国の移転価格税制に関わる検討状況
- 第6章 その他の自動車関連政策の動向